

## 環境生態センター



センター長 大槻 剛巳  
(衛生学教授)

副センター長 山内 明  
(生化学准教授)

### 施設の概要及び特色

目的：本センターは環境生態領域の研究を円滑に遂行する為、関係設備及び機器を集中整備した施設である。

構成：本センターは次の構成で成り立っている。

#### 1) 共同実験室 1～5

本センターの共同実験室は全てP1レベルの遺伝子細胞実験を行う事が出来る。各実験室は、実験台の単位でセンター登録者に割り当てられており、それぞれの実験を行っている。また、共同実験室4に於いては、センター所有の機器を集中的に配置している。

主な機器は以下のとおりである。

共同実験室1：マイクロ冷却遠心機、テストチューブ用卓上遠心機等

共同実験室2：ドラフト、ユニバーサル冷却遠心機、低温恒温器等

共同実験室3：クリーンベンチ、実体顕微鏡、DNAオープン等

共同実験室4：細胞走化性解析装置EZ-TAXIScan、EZ-TAXIScan解析用PC、微量サンプル分光光度計NanoVue、バイオイメージングシステム(Chemi-Stage、Dolphin-Doc等)、バイオクリーンベンチ、CO<sub>2</sub>インキュベータ、倒立型ルーチン顕微鏡(位相差セット)、低温恒温器、自動セルカウンター、プログラム温度コントロールシステム、マイクロプレートリーダー、マイクロ冷却遠心機、ユニバーサル冷却遠心機、極微量分光光度計、分光蛍光光度計(細胞内Ca測定装置付属)、恒温振盪培養機等

共同実験室5：安全キャビネット等

#### 2) 測定室 1～2

三眼システム顕微鏡、撮影装置付蛍光顕微鏡、アキシオスコープ等

#### 3) 洗浄室

純水/超純水製造システムMilli-Q Synthesis、蒸留水製造装置、卓上型凍結乾燥機、一体型DNA遠心濃縮システムSpeed Vac、オートクレーブ、恒温乾燥器、乾熱滅菌器、フレークアイスメーカー等

#### 4) その他、検体保存スペース

超低温フリーザー、バイオメディカルフリーザー、フリーザー付薬用保冷库、振盪培養器等

#### ○自己評価と反省

本研究センターは、敷地面積も狭く、またなんらかの研究技術に特化している傾向が薄いのはあるが、平成21年度より私学助成研究設備補助によるEZ-TAXIScan簡易型細胞動態解析装置が導入され、細胞の生態反応を観察する上では、十分な機器が揃った体制になってきている。設置してあるが利用状況が頻繁でない機器などの調整にも気を遣って行きたい。そして、「環境生態」に適した実験に合致するように実験ベンチの配分と、共用実験台部分に分け、比較的円滑な運営ができていると考えている。今後共、利用者の利便を図ることを第一義的に考えて、センター運営を行っていきたいと考えている。

#### 将来の改善方策

中央研究部運営委員会の発足以来、実験台の配分や中～大型機器の導入に係る選定や申請、設置についても、各センターの委員会の役割は、少なくなってきた。研究センター全体の改組や、運営方式の改革の時期に近い将来、訪れる印象を抱いており、その中で、現状としての「環境生態センター」の中で、利用者の利便、そして最終的には本センター利用の研究から素晴らしい論文が生まれることに最大限の努力を図りたい。